

7 動脈硬化性疾患および悪性腫瘍の発症要因に関する疫学的長期追跡研究

研究代表者名： 足達 寿

共同研究者名： 今泉 勉、榎本美佳、平塚章子、佐藤 晃

施設名： 久留米大学医学部第三内科

研究目的

高齢化社会が急速に進行する日本人の疾病構造において、高血圧、高脂血症などの古典的な危険因子がどの程度、脳・心血管疾患に影響力を持っているのかの前向き疫学研究は、一部の施設で独自に行われているに過ぎず、欧米のような数万人規模の疫学調査は本邦では未だ行われていない。また、糖尿病と癌死亡が有意に関連するという報告もあり、この点も疫学的な研究で証明されなければならない。

対象と方法

当教室では1958年より世界7カ国共同研究の一環として定期的に福岡県浮羽郡田主丸町において住民検診を行っている。今回は1999年5月より同一地区において住民検診を行い、40歳以上の男女、合計1,920名が受診した。本検診では血圧およびBMI測定、血清脂質(総コレステロール、HDLコレステロール)、HbA1cなどの採血、心電図検査、頸動脈エコー検査、生活習慣(喫煙、飲酒)の聞き取り調査を行った。

このうち、すでに脳・心血管病を発症した既往があるもの、および悪性腫瘍で治療中のもの18名を除く1,902名に対し、現在追跡調査を行っている。エンドポイントは総死亡、脳心血管系疾患発症および死亡、さらに癌死亡である。平成13年度は、検診後2年目にあたるが、検診後5年目(平成16年)を目処に死亡・発症調査を完了することを目指している。統計学的手法は、Cox比例ハザードモデルを用いた多変量解析を行う。

結 果

1. ベースライン時(1999年)の結果

全受診者は、男性794名(平均年齢：63.6歳)、女性1,126名(平均年齢：62.1歳)、合計1,920名(平均年齢：62.7歳)であった。BMIは 23.1 kg/m^2 、収縮期血圧は133.6 mmHg、拡張期血圧は78.8 mmHgであり、降圧薬を服用中のものは男女ともに約20%であった。血清コレステロール値は平均で199.8 mg/dlであったが、女性では207.4 mg/dlと高値を示した。高脂血症治療を受けているものは全体で約5%であった。HbA1cは男女ともに5.2%であり、糖尿病治療者も全体で3%強であった。喫煙率は男性で40%未満となったが、女性ではわずかに喫煙率が増加した。

2. 40年に亘る冠危険因子の経年変化

田主丸検診は、1958年より5年から10年の間隔で同一地区において行われてきた。1958年と1977年は男性のみ、1982年からは女性の検診も始まった。従来、40歳から64歳までのデータによる比較を行ってきたため、1999年も同じ年齢層での比較を行った。男性のBMI ≥ 25 の頻度は次第に増加し、1999年では34.1%になった。女性は変化が見られなかった。男女ともに高血圧者

の頻度は増加し、特に高血圧治療者は10年前に比べて約3倍の20%に達した。

総コレステロール値が220 mg/dl以上の高コレステロール血症者は男女ともに20%を超え、高脂血症治療者も次第に増加していた。HbA1c \geq 6.5%の糖尿病患者の頻度は男性でやや増加し、女性では不変であったが、治療者は男女ともに増加していた。

喫煙習慣は、1999年の検診で男性の喫煙率が初めて50%未満となったが、女性は特に40歳代の若い年齢層で喫煙者が増えており、全体でも増加傾向を示した。

考 察

食生活の欧風化、農耕器具の機械化により、農村地区である田主丸町でも冠危険因子を有する者が増えてきている。男性の喫煙率の低下以外は全て以前よりも悪化しており、脳・心血管病発症の増加が危惧されている。1958年から1982年までの検診受診者の発症調査の結果からは、脳出血は減少、脳梗塞は微増、虚血性心疾患は不変であることが示されている。^{1,2)} しかし、今回の受診者のベースラインでの成績からは、虚血性脳梗塞・虚血性心臓病の発症の爆発的な増加が起り得ることも予想され、1999年の検診受診者の発症調査が最近の動向を占う上で極めて重要である。

近年、証拠に基づく医療 (EBM) を重視する傾向が次第に高まっており、方法論を統一した多施設共同疫学研究の重要性が叫ばれている。我々は、今回、本統合研究に参画することによって、長期追跡調査を行い、総死亡、心血管系疾患の発症と死亡、および癌死亡の把握を正確に行い、動脈硬化の危険因子との関連を検討する。その結果、わが国独自のデータを公にすることが可能になり、発症予防ひいては医療費削減という観点から見ても、極めて重要な基礎資料を提供することが期待できる。

文献

- 1) Koga Y, Hashimoto R, Adachi H, Tsuruta M, Tashiro H, Toshima H: Recent trends in cardiovascular disease and risk factors in the Seven Counties Study. In Keys A, Toshima H, Blackburn H. Eds. Lessons for Science from the Seven Countries Study. Springer-Verlag:63 - 74, 1994
- 2) Toshima H. Coronary artery disease trends in Japan. Jpn Circ J.58:166 - 172, 1994